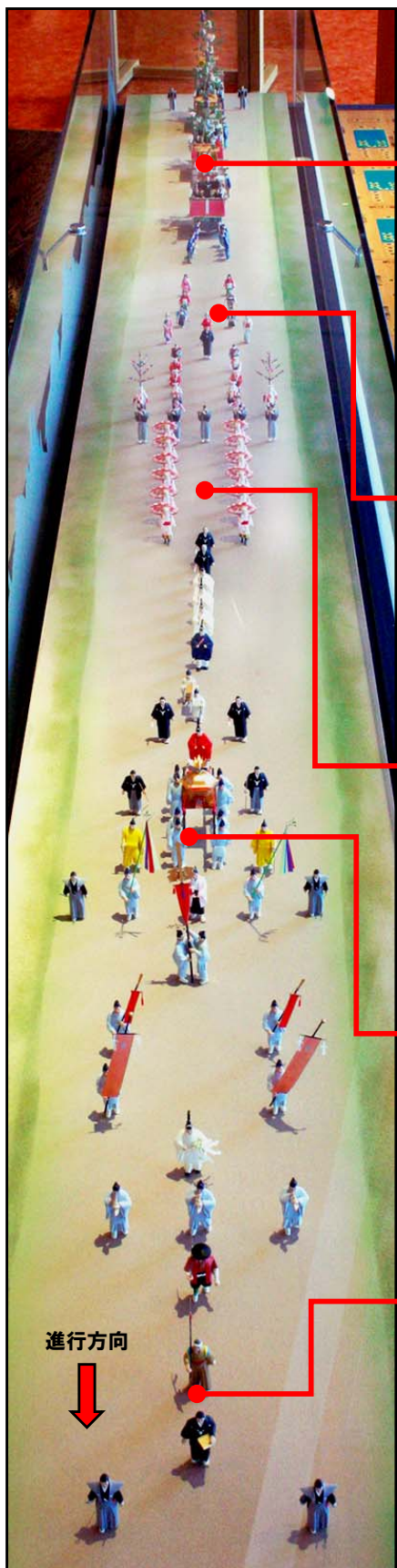


茶わん祭り 渡御の行列

『神を迎える神聖な行事』である茶わん祭り。

祭りの最初には、参加者が高時川に入って禊^{みそぎ}をします。また、曳山にそびえる松の木は、お正月の門松と同じ『神を迎える依代』^{よりしろ}で、ここに神の降臨を仰いでから祭りが始まります。丹生神社を出発した神輿^{みこし}の渡御は、八幡神社まで隊列を組んで行進します。



進行方向



【曳山】

永宝山、寿宝山、丹宝山の3基の山車組立てには、金物やロープは使わず、藤蓐で締付けます。丹精込めて作られた『山車飾り』は夜明けとともに曳山に飾り付けられます。道中の振動に耐えられるよう、山車飾りは『サス』と呼ばれる竹竿で支えられています。八幡神社では『サス』をはずし見事な作品が披露されます。



【舞子】

三役の舞として、「神子の舞」「扇の舞」「鈴の舞」があります。これらの舞の「後ろ向きになり、後退しながら舞う形」は中世の舞の名残です。この他にもいくつかの舞が披露されます。



【花奴】

花奴は、渡御行列の花形です。江戸時代の末期から行われるようになったもので、奉賛の唄や奴音頭にあわせて、花傘を持って踊ります。



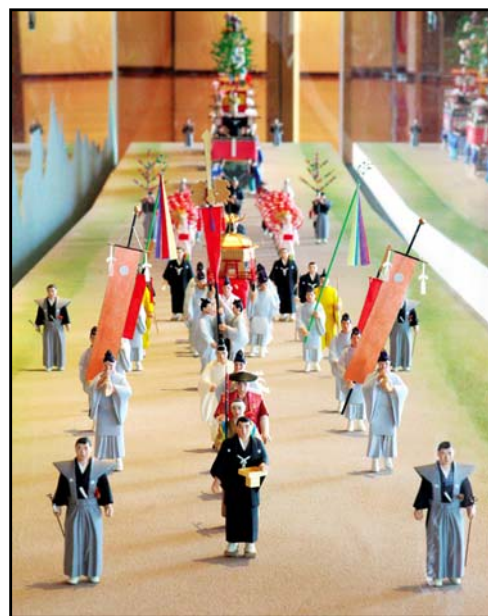
【神輿】

神輿は、天正年間（1573）に造立されましたが、その後大破したため宝暦13年（1762）に再建されました。



【金棒・新神主・長刀振り】

金棒は神輿の警護の役目、梅の枝を持った新神主は神輿を先導する役目があります



【参考資料】・丹生の茶わん祭（丹生茶わん祭保存会発行、平成14年3月）

・広報誌たかとき川 Vol.28

【写真撮影】・茶わん祭りの館内模型